

2 令和3年度の主な取組

I 消費動向の変化を見据えた販売戦略の展開

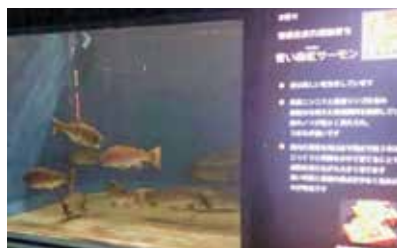
新たなブランド商品の育成に向けた取組

取組概要

ジュノハートや青い森紅サーモン、青森きくらげについて、生産者や流通業者、研究機関、行政等が連携して生産・販売体制を整備するとともに、首都圏の百貨店等における販売やイベント展示、各種メディアなど品目に応じた情報発信・PR活動を展開しました。



伊勢丹新宿本店におけるジュノハートの販売



浅虫水族館における青い森紅サーモンの展示



試食販売を通じた青森きくらげのPR

冷凍食品産業の振興に向けた取組

取組概要

市場規模が拡大し、国産の原材料に対するニーズも高まっていることから、県内における冷凍食品産業の振興に向けて、県産農水産物を産地で冷凍する優位性をセールスポイントとした高品質な冷凍食品の開発や、加工事業者を対象として、専門家のアドバイスを得ながら総菜やスイーツなど冷凍食品の商品化に向けた支援を行いました。



ブロッコリーの冷凍試作品

【主な取組】

- (1) 産地と加工事業者との連携による冷凍野菜等の生産・加工体制の構築
- (2) 実需者ニーズに応えたフローズンフーズの商品企画と開発促進
- (3) 産業振興に向けたセミナー等の開催
- (4) 開発したフローズンフーズの求評活動とブラッシュアップ支援



販路候補先での求評

コロナ禍に対応した非接触型の県産品セールス活動

取組概要

コロナ禍により、店頭における対面での消費宣伝活動が自粛となったことを受け、販売現場の状況変化に対応した消費宣伝の活動態勢を構築するため、個別に包装した試供品やアバターなどを活用した新たなセールス手法の実践と検証に取り組みしました。

【主な取組】

- (1) 試食に代わる個別に包装した試供品の配布
- (2) 調理音に着目した映像の放映
- (3) アバター等の新技術を活用した非接触でのPR活動



映像系アバターでのPR活動

Ⅱ 労働力不足の克服と安全・安心・高品質生産

あおもり米新品種「はれわたり」のデビューに向けた取組

取組概要

あおもり米新品種のデビューに向けて、品種特性を発揮できる生産指導体制を整備するため、栽培適地の検討や高品質・安定生産技術の確立を図る取組を進めました。また、名称を「はれわたり」に決定・発表し、令和5年の本格デビューに向けた機運を高めました。

【主な取組】

- (1) 現地調査ほの設置等
- (2) 栽培マニュアル（暫定版）の作成
- (3) 名称の選定（全国から10,205件の応募）



「はれわたり」現地検討会



知事による名称発表

中小規模稲作経営体への高収益野菜導入による複合経営の普及

取組概要

水稻単一経営が多く、米価下落の影響を大きく受ける津軽北部地域の農業者を対象に、高収益野菜の普及展示ほの設置や現地検討会等による複合経営の普及拡大に取り組みました。その結果、ブロッコリーの導入に関心を示す農業者が増加し、今後の取組拡大が期待されます。

【主な取組】

- (1) 農業者や関係機関等による協議会の開催
- (2) 普及展示ほの設置や現地検討会等による普及活動



ブロッコリー施肥同時中耕培土機実演会

生産効率の高い園地を取り入れたりんご産地の育成

取組概要

近年、先端技術の導入等による高密植わい化栽培や、大規模化に向けた新たな栽培方法による生産性や収益性の向上を期待する声が大きくなっていることから、機械導入や園地づくりを推進しました。

【主な取組】

- (1) トラクター等によるせん定枝収集や肥料散布などの作業効率の調査
- (2) メーカーや先進農家と連携した軽労化機械の実演会や園地見学会の開催



りんご軽労化機械実演会

Ⅲ 山・川・海をつなぐ「水循環システム」の再生・保全

県南地域における松くい虫被害の拡大防止に向けた取組

取組概要

平成30年10月に県南地域で初となる松くい虫被害が南部町で確認されました。それ以降、地域ブランドの「南部あかまつ」を松くい虫被害から守るため、地元役場や関係団体など地域が一体となって被害の早期発見・早期駆除に向けた防除対策を実施するとともに、樹種転換や伐採木等の有効活用などに取り組みました。

【主な取組】

- (1) 被害木等の早期発見・早期駆除
- (2) 予防対策としての樹種転換の推進
- (3) 大学との協働による航空写真を用いた枯死木等の抽出システムの構築
- (4) 地域に対する普及啓発と隣接県との情報共有



樹種転換の施工地（南部町）



再造林（スギ植栽）の様子

農業用ため池の適正な管理及び保全を支援する取組

取組概要

大雨による被害を最小限に抑えるためには、土地改良区等のため池管理者が、日常の見廻りや点検、補修などを適切に行い、ため池を健全な状態で維持することが何より重要です。

このため、県内にある約1,700か所のため池について、適正な管理及び保全に必要な措置を講ずることで、農業用水の確保を図るとともに、点検、補修のポイントや異常が確認された場合の対応などを気軽に相談できる窓口として、青森県ため池サポートセンターを令和3年12月に開設しました。

【青森県ため池サポートセンターの役割】

- (1) ため池の異常や維持管理等に関する相談窓口
- (2) 技術的な指導や助言（現地調査も実施）
- (3) 情報収集、発信（ホームページの運営等）



ため池管理者への研修会



青森県ため池サポートセンターの開設

Ⅳ 連携・協働・交流による活力ある農山漁村づくり

黒石市大川原地区の棚田保全・管理の取組

取組概要

令和3年4月、黒石市大川原地区の棚田約32haが県内初となる国の「指定棚田地域」の認定を受けたことを契機に、棚田地域の振興活動に参加する多様な方々により「大川原地区棚田地域振興協議会」が設立され、棚田の保全・管理と、棚田を地域資源とした地域振興を図っていく取組が本格的に開始されました。

【主な取組】

- (1) 活動計画案の検討（活動目標や各種取組など）
- (2) 農産物のブランド化への取組（大川原棚田米の販売）



「大川原棚田米」の販売の様子

産直活動から一歩前へ！風間浦村に広がる地域共生社会

取組概要

風間浦村の産直組織「かざまうら産直友の会」は、「産地直売所『ふのりちゃん』」において、全国的にも珍しい乾燥海藻類に特化した産直施設を運営しています。令和元年度からはソーシャルビジネスを開始し、村民の買い物利便性向上などを実現しました。

【主な取組】

- (1) 村内事業所への移動販売
- (2) 買い物が困難な高齢者宅への宅配



高齢者宅へ総菜を宅配

「なりわい」と「にぎわい」を創出する佐井漁港の取組

取組概要

「人・文化・食を育むゆりかごである漁村」の核となる漁港を、高齢者や女性、新規就業者でも安全に働くことができる「なりわい」の場とするとともに、新たな体験型観光資源として活用することで、漁村の「にぎわい」も創出する整備を「わいわい漁港整備」と名付け、令和3年度から佐井漁港において着手しました。

【主な取組】

- (1) 「わいわい漁港整備」

既存の防波堤の沖側に新たな防波堤を整備し、その内側をサーモンなどの養殖場にするほか、藻場も整備し磯根漁場としても活用。漁港内を漁業体験観光への活用に取り組んでいく予定。

- (2) 佐井地区「なりわい」「にぎわい」推進協議会の設立

「なりわい」と「にぎわい」の場となるイメージ図

5

V 農林水産業の成長と共生社会を支える人財育成

高校生等の就農促進に向けた取組

取組概要

新規就農者の確保に向けて、人口流出が続く県内の若年層を主な対象として捉え、農業法人と連携の上、出前授業や合同企業説明会を開催するなど、雇用就農の促進に重点的に取り組みました。

【主な取組】

- (1) 農業法人経営者による出前授業
- (2) あおもり新・農業人フェア（農業法人等合同企業説明会）の開催



農業法人の視察（五所川原農林高校）

あおもり新・農業人フェアの実施状況概要

項 目	津軽会場（弘前市）	県南会場（八戸市）
出展者数	19法人・団体	17法人・団体
来場者数 （オンライン含む）	77人	30人



あおもり新・農業人フェア（津軽会場）

「青い森林業アカデミー」開講

取組概要

本県の森林資源が本格的な利用期を迎える中、林業の現場で必要となる基礎的な知識や技術を習得し、将来的に地域林業の中核を担う現場技術者を育成するため、令和3年4月に「青い森林業アカデミー」を開講しました。令和3年度は8名の研修生が修了しています。

【主な取組】

- (1) 先端技術も取り入れた実習主体のカリキュラムの提供
- (2) 高校教諭対象の参観デーや一般向けオープンキャンパスの開催
- (3) 学校等での林業出前講座、林業の仕事体験会の開催



開講式



研修の様子

「青い森林業アカデミー」の概要

開 講 時 期	令和3年4月
研 修 期 間	1年間（220日程度、研修1,320時間程度）
研 修 拠 点	県産業技術センター林業研究所研修棟
定 員・対 象	10名 ※県内で林業の就業を希望する、高等学校卒業又は同程度の学力を有する、18歳以上43歳以下の者

